# １．１　３校全体の取り組みについて

### 1.1.1　「やまと再構築プロジェクト」の概要および各校の役割

（1）「やまと再構築プロジェクト」の概要

奈良県南部地域は、人口減少率が全国平均速度の倍の速さで進行しており、若者の人口流入施策が必要である。また、奈良県は県外就職率 30%と全国１位であり、製造業従業者数も全国 36 位、製造業出荷額が全国 35 位という状況で、地域ものづくり力が脆弱であるといった課題を抱えている。

「共創郷育：やまと再構築プロジェクト」は、こうした課題解決に向けて奈良女子大学が基幹校となり、奈良工業高等専門学校と奈良県立大学を参加校として進めている。奈良女子大学内に「やまと共創郷育センター」を設置し、奈良経済同友会などの県内企業ならびに奈良県と連携する体制を整え、教育プログラム、就職支援プログラムの整備、拡充を進めてきた。

COC+3 校は、教育・研究資源を活かした授業科目を学生に提供し、さらに、単位互換制度を整備して各校の強みを共有している。地域とのつながりを強くした教育プログラムを通じて学生の視野を広げ、興味や関心を触発することによって、地方創生に対する多面的な思考力と行動力を高め、多様な地域人材を輩出し、一人でも多くの学生が奈良県に就職することを目指している。

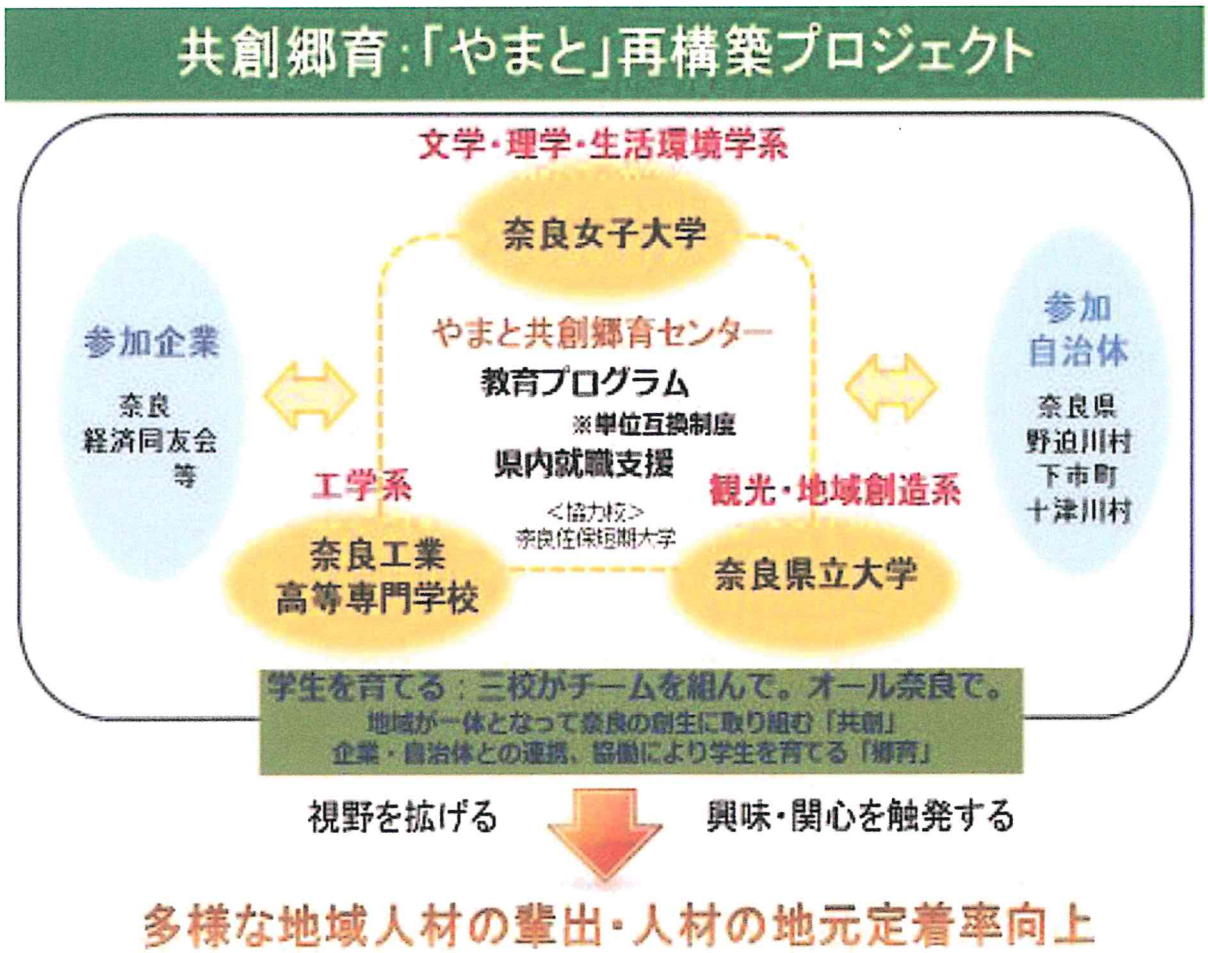



図１　「やまと」再構築プロジェクト概要図

（2）各校の役割

奈良女子大学は事業全体を円滑かつ効果的に実施できるよう努め、特に、県南部の活性化を地域自治体とともに図っている。奈良工業高等専門学校は、工学系専門分野から県内企業・自治体のニーズに対応して企業製品の機能改善や新製品開発に貢献し、企業業績の向上による雇用増を図っている。奈良県立大学は、観光学等の視点から観光や商店の活性化等に取り組んできた実績を活かし、県内就職先の開拓を図っている。

| | |
|---|---|
| 奈良女子大学 | COC+3 校の取りまとめを行い事業が円滑に実施できるよう努める。奈良県、特に県南部の活性化を地域自治体とともに図る。教育プログラムにおいて地域志向科目を拡充し、学生には地域に根差した教育を施し、県内就職者を増やす役割を担う。 |
| 奈良工業高等専門学校 | 奈良県内唯一の工学系の教育機関として、他の大学にはない分野の教育面で地方創生に貢献する。奈良県内企業からのニーズに対応、企業とのパイプを増やし、企業製品の機能改善、新製品開発による企業業績の向上による雇用増に結び付ける。 |
| 奈良県立大学 | 地域創造学部を擁する大学として、観光や商店の活性化等の観点から地域の活性化に取り組む。同時に、奈良女子大学及び奈良県立大学生の県内就職支援ならびに県内就職先の開拓を行う。 |
| 参加自治体 | 学生が地域に入り地域の課題発見・解決能力を身につける授業の実施に協力し、地域創生を担う人材の養成に寄与する。また、就職情報、県内企業の情報の提供を行う。 |
| 参加企業 | ゲストスピーカーとして授業への参画、企業説明会への協力、学生と OG との交流会、企業（会社）見学会への協力、インターンシップの受け入れ拡充、企業トップによるビジネスマインドの醸成や起業などにかかるノウハウ等の提供を行う。 |
| 奈良佐保短期大学（協力校） | 社会の重要な課題と関連する生活福祉・食物栄養コース等を有しており、COC+参加校である奈良工業高等専門学校の介護用ロボットの試作等に対する実践的な情報提供等の協力を行う。 |

### 1.1.2　やまと共創郷育センターCOC+評価委員会（平成 28 年度評価）

（1）やまと共創郷育センターCOC+評価委員会の開催と全体評価

やまと共創郷育センターCOC+評価委員会は COC+事業について評価を行うための組織で、長友恒人前奈良教育大学長を委員長として 3 名、学外学識経験者及び学内の中立的立場の 2 名に委員を担当いただいている。会議では平成 28 年度に本学、奈良工業高等専門学校及び奈良県立大学が実施した COC+事業について評価委員会から評価を受け、全体評価としては第 2 年度の成果はかなり進展していると評価される。一方、本事業が「奈良県下の企業への就職率向上により若年層人口を奈良県に留める」ことを具体的な目標としていることを考慮するならば目標達成の目途が立ったとは言いがたいとの厳しい評価内容であった。

その評価結果を踏まえた今後の取り組みとしては奈良の魅力や奈良県にある企業を知った学生が一歩進んで県内就業を志向するための工夫として望ましい勤務条件や雇用形態など魅力ある職場を地域協働機関（自治体、企業）が共同して創生することが重要であるとの提言があった。今後この提言を実行していくことが出席者全員の共通認識とした。

平成 29 年 6 月 30 日
やまと共創郷育センターCOC+評価委員会

「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」の全体評価について

「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」5 カ年計画の第 2 年度にあたる平成 28 年度は平成 27 年度の準備期間を受けて、実質的な事業活動が開始された。

今年度は、学生が授業や地域での活動を通して、奈良県を知る、奈良県の特長を知る、奈良県の産業を知ることに一定の成果を収めたと評価される。具体的には、奈良県南部の野迫川村、十津川村の協力を得て設置したサテライトを活用した授業や下市町における授業（奈良女子大学）、県内企業や地域と協力した授業や地域創生研究クラスターの活動（奈良工業高等専門学校：以下、奈良高専）、地元商店の協力の下に実施した商品開発プロジェクト（奈良県立大学）などは、学生が座学を超えた五感によって奈良を知り、奈良に関心を持つという成果を得た。

奈良県内の企業や行政との連携が一歩進んだことも評価される。県内企業魅力発見セミナー（奈良女子大学）、県内企業による特別講義や県内企業との交流会（奈良工業高専）、等の企画が多数の関係者の参加で実施され、奈良県や野迫川村、十津川村、下市町の評価も好意的である。

以上のように、第 2 年度（実質的な活動としては初年度）の成果は全体として進展していると評価される。一方、本事業が「奈良県下の連携自治体にある企業への就職率向上により若年層人口を奈良県に留める」ことを具体的な目標としていることを考慮するならば、目標達成の目途が立ったとは言いがたい。奈良の魅力や奈良県にある企業を知った学生が一歩進んで県内就業を志向するための企画や工夫が必要であろう。昨年度の評価の繰り返しになるが、学生に奈良県の魅力、奈良県内企業の良さを知ってもらうと同時に、学生がどのような業種や職場を希望しているのかを県内企業に知ってもらう工夫も必要であろう。また、望ましい勤務条件や雇用形態など魅力ある職場を企業、行政と共同して創生することも重要であろう。

（2）評価委員からのコメントとその対応

（浦岡委員）

・当初目標以上のアクションをかけて、サテライト、ロボットクラスター（技術的な成果）など、具体的な成果を得ている。これらが学生の就職につながることを祈る。

（戸谷委員）

・3校連携講義として「なら学＋」に着目している。「なら学＋」に奈良県の基本情報（経済、人口、税収等）を押える授業内容が必要である。

→第1回目の授業となる「なら学+（プラス）のガイダンス」において、COC+事業、「やまと」再構築プロジェクトの説明、なら学＋（プラス）の授業の目的・進め方といった他、戸谷委員の指摘を受けて、「指標から見た奈良県」と題して奈良県の経済的な基礎知識についての授業を行った。

（福田委員）

・県内企業側から学生たちへの情報発信力不足が否めない。

・今後、行政・企業を巻き込み、県内企業の魅力をもっと大々的に発信していく流れにしていくことを期待する。

→「女子大学生ワーク＆ライフ EXPO」（奈良県主催、奈良女子大学・奈良県立大学・奈良工業高等専門学校共催）の開催、参加企業等の協力を得ながらの各校での県内企業との交流会の実施の他、3 校合同による県内企業見学会等の機会を通して、行政・企業の動きも活発になりつつあり、学生・企業との距離は着実に近づいてきた。

図２　COC+評価委員会の様子

### 1.1.3　事業の進捗状況

（1）地域志向科目の整備

3 校それぞれの教育・研究資源を活かし地域とのつながりを強くした教育プログラムを学生に提供した。奈良女子大学の教養科目群に「なら学＋（プラス）」を開講し、県内企業並び自治体からのゲストスピーカーによる奈良の課題や取り組みについての講義、および、奈良工業高等専門学校と奈良県立大学の両校の教員による工学系ものづくりおよび観光・地域創造学の観点からの講義で構成した。

各校の学生が相互に地域志向科目を履修し単位を取得できるように、単位互換に関する覚書を締結し、奈良女子大学の「なら学＋（プラス）」、奈良工業高等専門学校の「社会技術特論」（地域創生演習科目）を対象科目とした。

（2）県南部地域での体験型教育

COC+参加自治体である下市町、野迫川村、十津川村の協力の下、当該地域の活性化及び本学学生が奈良県のことを理解し、地方創生に貢献できる人材の育成に寄与すべく整備した学習拠点を活用して PBL 型地域志向科目（＊注）を実施した。

野迫川村の「奈良女子大学野迫川村交流センター」（旧野迫川中学校）では、学習塾等の学校以外の教育サービスを享受できない野迫川村の小中学生に対して奈良女子大学の学生が同村に出向き、学習指導やレクリエーション活動を行った。この取組は、「奈良女塾」として奈良県が主催する平成 28 年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」において優秀賞に選ばれ、県教育委員会の「県内大学生による県南部教育支援事業」として野迫川村のほか東吉野村、下市町、大淀町、山添村、吉野町にて実施され、本学学生が引き続き企画・立案に協力している。

下市町の「奈良女子大学下市アクティビティセンター」（農村環境改善センター内）では、PBL 型地域志向科目である奈良女子大学の「コミュニティ・リサーチ」「コミュニティ・アクション」、奈良工業高等専門学校の「社会技術特論」等を開講し、これらの科目において、地元の人々や自治体の職員と一緒に地域の現状を調査し、その魅力を見出すことを通じて、課題の解決の糸口となるアクション（PR コンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）を企画・実践した。観光振興、社会ネットワークの構築といった同町の地域創生に寄与できる事業を展開しており、COC+事業で創設したサテライト施設が、コミュニティの再構築や地域文化の伝承を図る拠点として機能している。

十津川村においては、十津川村サテライトを十津川村北部保健センター内に整備した。「福祉住環境学」等の科目において、移住者目線・学生目線で十津川村の暮らし体験宿泊等を行いながら、十津川村の魅力を発信するための方法の検討や情報収集を行った。

（＊注）PBL 型学習　（Project-Based Learning の略、課題解決型学習）

（3）就職先の開拓

学生が活躍できる県内就職先の開拓に関しては、奈良経済同友会等を介して、県内企業認知度向上に関する取組が行われ、県内企業においても就職先を創造する意識改革が進んでいる。一方、地域モノづくり力の強化の観点から、奈良工業高等専門学校では、地域イノベーション拠点とした活動を通じて産学官金協働による知的創造と地域経済の活性化を目指した

「奈良高専地域イノベーションコンソーシアム」を設立し、参加企業の増加に伴う雇用ニーズの拡大、新たな雇用先開拓を目指すため、参加企業の募集を開始した。

また、企業の競争力強化を図るために、地域創生研究クラスターを立ち上げ、奈良県科学技術振興指針にあるニーズである「福祉ロボット」、「医工連携・地域包括」、「農工連携」、「スマートシティ」、「環境」をテーマに事業協働機関と共同研究を進めた。その結果、2ヵ年度累計で特許出願1件、共同研究13件、受託研究2件、奈良県下企業が考案した間伐材運搬システムと間伐材の材料資源化を融合し、新たな雇用を産み出すために農工連携クラスター、環境クラスターとの連携による吉野町との林業振興策協議が始まった。

奈良県企業立地推進課と協議を重ね平成27～29年度の活動期間中3社の企業誘致に協力した。その結果、そのうち大阪府の企業が県内に移転することが決まり、奈良県内に雇用を産み出すことができ、将来の雇用を見込めることとなった。また、県雇用政策課と協議の結果、県のホームページ上に奈良高専卒業生向けの再就職を支援する案内ページを開設していただき、奈良高専ホームページから当ホームページへリンクすることで県と連携した支援を周知するという新しい仕組みを構築するなど、県を中心とした自治体ならびに企業との協働が進んでいる。

（4）事業目標値・実績値（就職者数とインターンシップ数）

COC+3校の事業協働地域（奈良県内）への就職状況は、平成27年度は目標値51名に対して実績値は41名、平成28年度は目標値55名に対して46名となった。事業半ばを迎え、今後、強力に推し進める必要がある。なお、インターンシップ参加者数は、平成27年度目標値54名に対して実績値は56名、平成28年度は目標値60名に対して61名と計画通りに推移している。

表1　地域内就業者数ならびにインターンシップ目標値と実績値

| 地域内就職者数 | | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 目標値 | 45 | 51 | 55 | 60 | 67 | 94 |
| | 実績値 | 45 | 41 | 46 | | | |
| 奈良女子大 | 目標値 | 30 | 32 | 33 | 35 | 39 | 62 |
| | 実績値 | 30 | 22 | 32 | | | |
| 奈良高専 | 目標値 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 |
| | 実績値 | 0 | 1 | 0 | | | |
| 奈良県大 | 目標値 | 15 | 18 | 21 | 24 | 26 | 29 |
| | 実績値 | 15 | 18 | 14 | | | |

| インターンシップ参加者数 | | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 目標値 | 39 | 54 | 60 | 67 | 75 | 85 |
| | 実績値 | 36 | 56 | 61 | | | |
| 奈良女子大 | 目標値 | 26 | 28 | 30 | 32 | 35 | 40 |
| | 実績値 | 23 | 46 | 51 | | | |
| 奈良高専 | 目標値 | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 実績値 | 0 | 0 | 3 | | | |
| 奈良県大 | 目標値 | 13 | 23 | 27 | 32 | 37 | 42 |
| | 実績値 | 13 | 10 | 7 | | | |

### 1.1.4　COC+3 校合同の活動実績

（1）COC+事業連携の集いの開催　　平成 29 年 4 月 14 日（金）

経済会館（奈良県経済倶楽部）にて、奈良経済同友会主催の「COC+事業連携の集い」が開催された。奈良経済同友会会員企業に COC+事業への理解と協力を進め、同事業との連携を図ることを目的に、奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学より同事業の概要及び進捗状況を説明した。当事業への積極的な協力を確認し、地元企業の雇用活性化に向けた布石となった。

図３　COC+事業連携の集いの様子

（2）COC+事業協議会の開催　　平成 29 年 7 月 11 日（火）

奈良女子大学において平成 29 年度やまと共創郷育センターCOC+事業協議会を開催した。当日は事業協働機関の自治体・企業より多数の出席があった。初めに、今岡奈良女子大学長から平成 29 年度が COC+事業の正念場である等々の挨拶の後、成瀬やまと共創郷育センター長から、COC+事業全体にかかる平成 28 年度の実績報告及び 6 月 30 日開催の COC+評価委員会での評価結果並びに平成 29 年度の全体事業計画について説明が行われた。その後、奈良女子大学、奈良工業高等専門学校、奈良県立大学より、COC+事業の各校の取り組みと今後の予定について説明の後、出席者全員からの意見交換を実施した。参加自治体からは、「事業終了年度後も継続して事業を進めていてもらいたい」、参加企業からは、「評価委員会での評価結果を真摯に受け止め、双方向での情報発信（PR）が必要」等の意見が出た。最後に後藤奈良工業高等専門学校長及び伊藤奈良県立大学長から、COC+事業に対する今後の方向性等についての話しがあり、参加協働機関が奈良県の発展（地方創生）のため、一つになって個々の役割を果たしていくことを確認した。

図４　COC+事業協議会の様子

（３）COC+３校合同会社見学会（ならやま研究パーク）の実施　　平成29年８月８日（火）

ならやま研究パークにて、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学によるCOC+３校合同会社見学会を開催し、27名の学生が参加した。ならやま研究パークは、奈良と京都の県境にある平城山（ならやま）丘陵にあり、日本書紀にも「那羅山」として登場する奈良時代のモノ作りの集積地だった歴史ある場所に位置する。当日は、㈱南都銀行のシンクタンクである南都経済研究所を起点として、㈱ATOUN、アイコム㈱ならびに大和ハウス工業㈱総合技術研究所の３か所を見学した。㈱ATOUNは、パワーアシストロボットなどロボット技術を活かしたパナソニック系のベンチャー企業であり、会社名の「アトウン」はロボットと人間が「あ」と「うん」の呼吸となるべく名づけられたとのことである。商品化されているパワーアシストスーツは、近い将来、荷物集配や介護現場といった人間による労働作業を大きく軽減するものと思われた。アイコム㈱は無線機器の草分けといった存在で、本社は大阪にある。各種無線通信方式、デジタル通信システム、無線応用システム等の研究開発がここで行われている。両社からは、研究開発のプロセス説明を受けた後、デモ実験も見せていただき、どの学生も興味深く聞き入っていた。大和ハウス工業㈱は、誰もが知っている日本を代表する総合住宅メーカーで、総売上高は３兆５千億円を超える巨大企業である。総合技術研究所「テクノギャラリー」での地震体験、照度アップ窓、快適防音室等は、住環境を学ぶ学生はもちろん、将来家を建てようとする人にとって、大いに参考となる。また、「D’ミュージアム」の豊富な展示には目を見張り、創業者の「石橋信夫記念館」は、「奈良県からこんな偉人が出たのだ」と、改めて気づかされた。奈良市内にこのような多様な技術者集団がいる研究所があること自体知らない学生も多く、「最先端の技術に触れることができた」、「奈良から世界への未来への創造」といった感想もあった。また、工学系の学生に触れ合う機会の少ない奈良女子大学の学生が、モノ作りを得意とする奈良工業高等専門学校の学生達との意見交換・交流を深められたことは大変有益な機会となった。

図５　ならやま研究パーク内３校合同会社見学会の様子

＜参加学生の感想＞

・学校では得られない貴重な体験ができ、今後いかしていきたい。
・それぞれ各企業の特色を１時間という短い時間でまとめてくれていて、とても分かりやすく、将来やりたいことの断片をつかめたような気がしてとてもよかった。
・様々な分野があり見学できて勉強になりました。次回は自分の希望業種、興味のある分野があればぜひ参加したいと思っています。
・先生に勧められたのが主な動機でしたが、内容は本当に面白かったです。希望業種があれば次回も是非参加したいです。ATOUN のスーツのデモンストレーションをもっと見たいと思いました。
・県内企業にも、県外の企業にも負けない強みがあることがわかり、今まで知らなかった県内の企業の魅力を知るよい機会になり、大変良い経験になったと思う。また、将来の進路を決めあぐねていた僕への良い刺激になったと思う。
・普段立ち入ることのできない研究施設を訪問でき、また貴重な話や体験を経験したことは、今後僕の良い糧になりました。そして次にもし開催するならば、企業のより深い所まで見たいです。
・ATOUN さんや icom さんは、実際に研究員の方のお話を伺うまではどのようなことをなさっているのかが分からなかったけれど、お話を聞いて、非常に興味を持つことができた。このパーク内にあるほかの企業の見学も、できるなら是非したい。
・将来の進路を考える上で、さまざまな企業を知りたいと思ったので参加しました。１日で複数の企業に実際に赴き、お話を聞くことができたのでとても良かったなと思いました。やはり企業というとどうしても大阪、東京などの大都市にある大手企業のイメージが強いですが、奈良にもさまざまな社会に必要とされる企業があることを改めて実感することができました。今日はありがとうございました。
・自分が今までに興味を持ったことがないような業種を知りたいと思い参加したので、色々な分野で活躍されている企業のお話をうかがうことができて良い機会になりました。また参加したいです。文系の分野を専攻している学生がどのように理系や機械系の職にか

かわっていけるか伺ってみればよかったと思いました。貴重な機会をありがとうございました。

・今回の見学では、3つの企業を同時に見学でき、普段は建築分野に目がいきがちな私でも、先端技術などの他の分野の内容も知ることができ、とても良かったです。また、体験型で見学できたことで、自分の中に残りやすく、説明だけでは分からなかったことも実感することができました。これからもこういった機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

・知らない企業と知っている企業がどのような研究を行っているかくわしく知れて大変興味深かった。

・現在大学で建築を学んでおり、住宅メーカーに興味があったため、今日の見学会で大和ハウスさんを見学できて、とても勉強になりました。

・普段から、地震応答解析を行ったり、地震被害調査などを行っていますが、実際に震度6以上のゆれを体験したことがなかったので、とても貴重な体験になりました。ATOUNさんのパワードスーツや大和ハウス工業さんの明るい窓などとても興味深かったです。

（4）単位互換に関する覚書の締結　　平成29年9月19日（火）

奈良女子大学において、今岡奈良女子大学長、後藤奈良工業高等専門学校長及び伊藤奈良県立大学長により単位互換に関する覚書が締結された。この覚書は地方創生に必要な人材を育成する目的を達成するため、それぞれの教育機関の特色を活かした分野の授業を、各大学等の学生が相互に履修し単位を取得することを認めるものである。覚書締結により、地方創生を理解するための、学生の関心や興味に応じた特色ある多くの授業科目の提供が可能となるとともに、参加大学等間の協力・交流体制の充実が図られることとなった。

平成29年度後期は、奈良女子大学の「なら学＋（プラス）」、奈良工業高等専門学校の「社会技術特論」（地域創生演習科目）が対象科目であり、平成30年度以降、奈良工業高等専門学校の「地域社会技術特論」（地域創生演習科目）、「地域と世界の文化論」（地域創生理解科目）、「地域創生工学研究」（地域創生実践科目）など順次追加予定である。

図6　単位互換協定覚書調印式の様子

（5）なら学＋（プラス）の開講　　平成 29 年 10 月 3 日（火）

「なら学+（プラス）」が後期開講科目（教養教育科目）として開講された。世界遺産、史跡に囲まれた「奈良」というフィールドを通じて、「奈良」の魅力に触れながら、地域社会の抱える課題を見つけ、地方創生、地（知）の拠点づくりについて考え、課題発見、問題解決、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、地元に帰っても活躍できる未来の地域リーダーを育成する授業である。県内企業並び自治体から様々なゲストスピーカーを迎え、奈良の課題や取り組みについて講義いただくものである。また、奈良工業高等専門学校から工学系ものづくり、奈良県立大学から観光・地域創造学の提供を受けた。

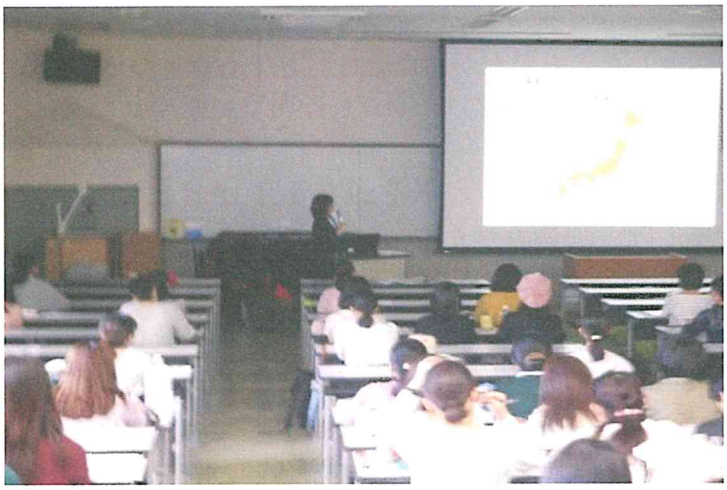


図７　「なら学＋（プラス）」（奈良女子大学）ガイダンス授業の様子

（6）女子大学生ワーク＆ライフ EXPO の開催　　平成 29 年 10 月 21 日（土）

奈良女子大学体育館にて「女子大学生ワーク＆ライフ EXPO」（奈良県主催、奈良女子大学・奈良県立大学・奈良工業高等専門学校共催）が開催された。

このセミナーは、女子大学生が就職活動のスタートラインに立つ前に、働く女性のリアルな話を聞くことで働き続けることを含めたライフプランをイメージするもので、奈良女子大学生が「県内大学生が創る奈良の未来事業」（主催：奈良県）に政策提案し、実現したものである。当日はあいにくの雨であったが、県内企業等 25 社、女子大学生 260 名（うち奈良女子大学生 225 名）が参加し、新潮社出版部部長の中瀬ゆかりさん（奈良女子大学出身者）による記念講演や、各社の女性社員らによる仕事の中身や働き方などに関する話に熱心に耳を傾けていた。

＜参加学生の感想＞

・中瀬さんのお話を聞いて、やはり聞き上手になることが大切だと思いました。これは仕事に限ったことではなく、今の自分たちの生活の中でも役立てられることだと思いました。自分から何かを発信するには、「相手の話を上手に聞かないといけない」とわかりました。私も普段、人と話すときや授業などで人の話をよく聞いてよい質問や受け答えができるようにならなければいけないと思いました。また、各企業のお話では、女性の管理職の割合がまだまだ低いことが分かったし、それを改善するための工夫についても知ることができました。

・2 回生の私にとって、初めて就職や企業というものに触れられるとても良い機会でした。

回らせていただいた企業テーブルでは、仕事の話の他にも、育休などの女性ならではの視点からのお話もしていただけて、とても勉強になりました。また、記念講演では大変興味深い内容でした。私らしく生きるために、出来ることをやっていこうと思いました。

・企業といえば大阪、東京、京都といった大都市を連想しがちでしたが、私の地元である奈良にもたくさんの企業があり、今回のこのワーク＆ライフ EXPO があったからこそ知ることができ、選択の幅が大変広がったように思います。とても良い機会になりました。企業パネルトークでは労働時間や育休制度についてなど女性にとって働きやすい職場か否かについてなども、より深く分かり、今後の業界研究の参考にしようと思いました。地元であるこの奈良で視野に入れつつ、就職活動に励みます。

・大学内ということもあり、いつもより参加人数は小規模なのに、参加企業さんはとても良くて密にお話を聞かせていただける良い時間となりました。また参加して下さった企業さんも地域に密着した企業さんが多く、とても魅力を感じるものばかりでした。まだまだ、業種や業界を絞ることは難しかったですが、企業の方とお話をさせてもらうことは、大切だし、楽しいことなのだと思うことができました。就活に良いイメージが持てたとても貴重で良い機会となり参加して良かったなと本当に思いました！

図８　女子大学生ワーク＆ライフ EXPO の様子
（左：中瀬ゆかり氏による講演　　右：参加企業のラウンドテーブル）

（７）県内企業合同会社見学の実施　　平成 30 年 2 月 19 日（月）および 2 月 20 日（火）

COC+参加企業である株式会社南都銀行、奈良経済同友会ならびに奈良経済同友会会員企業の協力を得て、バスによる COC+3 校合同県内企業見学会を実施した。

2 月 19 日（月）はモノづくり系を中心とした 4 社を訪問し、参加者は 31 名であった。

2 月 20 日（火）はサービス系を中心とした 4 社を訪問し、参加者は 23 名であった。

両日とも、午前 2 社、午後に 2 社の企業見学というハードスケジュールにもかかわらず、見学先企業の経営者・管理職、社員（職員）の方々から業務内容について具体的なお話をしていただき、実際に企業の雰囲気にも触れることができ、参加学生達にとって大変有意義で貴重な一日となった。また、帰りの車内では参加者全員によるこの日の感想や特に気になった企業の発表を通じて、文系、理系、工学系といった着眼点の違いなどお互いに新たな気づきを得ることができ、COC+3 校合同で実施した意義・成果があった。

COC+3 校合同　県内企業見学会日程表

| 2 月 19 日（月） | 2 月 20 日（火） |
|---|---|
| DMG 森精機㈱奈良第一工場 | 大光宣伝㈱ |
| 三和澱粉工業㈱ | 小山㈱ |
| ㈱イムラ封筒　新庄工場 | ㈱大和農園ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ |
| 佐藤薬品工業㈱ | 岡村印刷工業㈱ |

＜参加学生の感想＞

・どの工場も、安全・安心や製品の質を高めていく工夫がたくさんなされていました。
・1 日で 4 つも企業見学ができる機会はなかなかないので非常にありがたかったです。
・実際に働いておられる現場をすぐ近くで見られ、より生の声を聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごせたと思う。
・合同説明会だけでは感じとれない企業の雰囲気などが分かって良かったなと思いました。
・奈良の企業のことを知る機会が少なめなので参加できて良かったです。
・奈良にこんなに魅力的な企業、頑張っている企業があることを知ることができ、視野を広めることができた。
・自分からは見に行くことのなさそうな企業さんに出会えて良かったと思う。
・企業の方に親切に応対していただき、社会人というものも知ることができた。
・説明していただいた社員の方の仕事に対するこだわりやプライドが伝わった。
・私は地元での就職を考えていましたが、奈良県にも素晴らしい企業がたくさんあることを知り、奈良に残っての就職も良いかなと思うようになりました。
・企業の雰囲気を知るにはやはりネット情報だけでなく直接見て触れるということが大切だと思いました。
・もともと県内で就職したいと思っていましたがその気持ちが一層強まりました。

図９　バスで行く COC+3 校合同県内企業見学会の様子

（8）COC+シンポジウム2018の開催　　平成30年3月5日（月）

奈良女子大学記念館にて奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学の3校による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）シンポジウム 2018」を開催した。事業協働機関である奈良県、下市町の関係者、奈良県内の企業関係者、大学・高専関係者から約130名の参加者があった。奈良女子大学今岡学長による開会の挨拶後、奈良女子大学成瀬やまと共創郷育センター長から平成29年度のCOC+事業成果発表の後、奈良テレビ放送株式会社クロスメディア局次長の浅井隆士氏から「ネット時代におけるローカルメディアの役割と今後」と題する特別講演があった。その後、休憩時間を利用して、COC+3校の特色ある取組のパネルセッションを実施した。第2部は、「奈良からの刺激、奈良への発信」をテーマとして各校の学生による取り組み5事例が発表された。当日は、丹羽秀樹文部科学副大臣も学生発表をご視察されるというサプライズもあり、活発で幅広い意見交換がなされた。

今回のシンポジウムを通じて、参加者間で成果や課題の共有を行うとともに、COC+事業のさらなる発展のために、産官学が一体となり、協働しながらそれぞれの立場で今出来ることに尽力しなければならないとの誓いを新たにした。

日　　時　　平成30年3月5日（月）13：30　～16：30　（受付　13：00～）
場　　所　　奈良女子大学　記念館

スケジュール

13：30　開会挨拶　奈良女子大学長　　今岡　春樹
　　来賓挨拶　奈良経済同友会代表幹事（南都銀行取締役専務執行役員）北　義彦　氏

第1部

13：45　①　平成29年度事業成果報告
　　奈良女子大学副学長兼やまと共創郷育センター長　成瀬　九美

14：00　②　特別講演「ネット時代におけるローカルメディアの役割と今後」
　　奈良テレビ放送株式会社　クロスメディア局次長　浅井　隆士　氏

COC+活動報告ポスターセッション　ならびに　休憩

第2部

15：00　COC+3校学生によるCOC+活動事例・研究報告ならびに質疑応答

①　「リノベーション（ハイツてんがい内装改修）プロジェクト」
　奈良女子大学大学院　人間文化研究科（博士前期課程）　2年　　日高 紗彩
　奈良女子大学　生活環境学部　4回生　　川嶋 汐里、高本 真侑、多々良 理奈

②　「フリーペーパー出版社でのインターンシップ体験」
　奈良女子大学　文学部　2回生　　重里 麻友

③　「農工連携による農業支援の提案～巡回ロボットによる環境センシングシステムの開発～」
　奈良工業高等専門学校 専攻科システム創成工学専攻　1年　熊本 光

④　「女子学生による地域創生型課外活動～チャレンジプロジェクト『お弁当は奈良を救う！』の取組み～」
　奈良工業高等専門学校　電気工学科　4年
　　朝雛 えみり、小田 佳穂、阪本 真奈、茂木 麻友子

⑤　「ピア・キャリア・サポートにおける取り組みー社会人へのインタビュー調査報告ー」

奈良県立大学　地域創造学部　1回生　　櫻井 莉菜、廣田 みのり

16：15　全体質疑応答

16：30　閉会

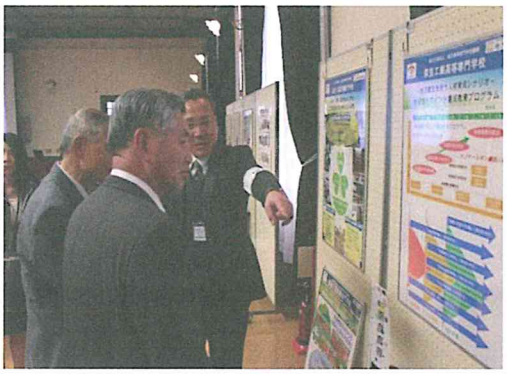
奈良女子大学今岡学長の挨拶

奈良経済同友会北代表幹事の挨拶

成瀬センター長の発表

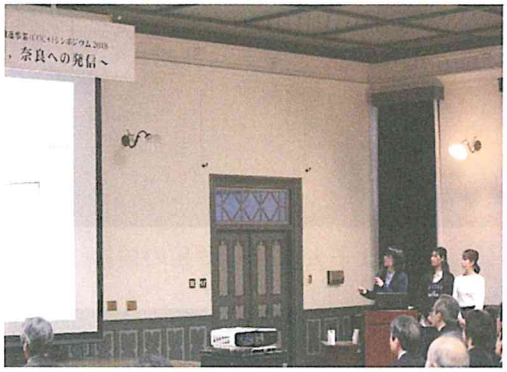
奈良テレビ放送㈱　浅井隆士氏の特別講演

COC+3 校のポスターセッションの様子（1）



COC+3 校のポスターセッションの様子（2）

丹羽文部科学副大臣（右）の視察




奈良女子大学生の発表（1）

奈良女子大学生の発表（2）

奈良工業高等専門学校生の発表（1）

奈良工業高等専門学校生の発表（2）

奈良県立大学生の発表

図１０　COC+シンポジウム 2018 の様子